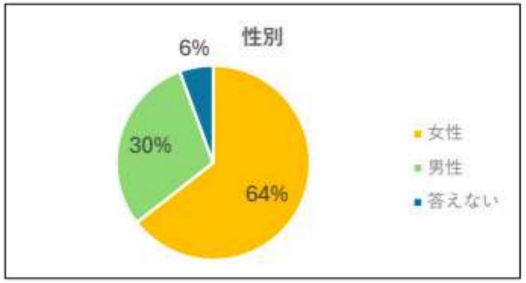
がん在宅療養フォーラム 2025 大阪 参加無料 要事前登録

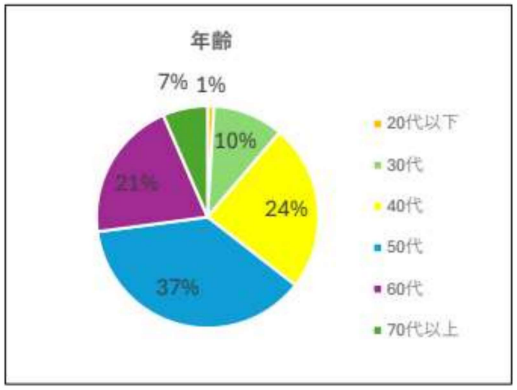
変わるがん医療とケア
変わらない情報とコミュニケーションの大切さ

渡邊　清高

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 教授

ご参加の皆さま （2月20日時点）
n=107





がん在宅療養フォーラム 2025 大阪 参加無料 要事前登録

ご参加の皆さまからのコメント（2月23日時点）
n=141名

・ランタンの入手方法
・患者が自分に必要な情報を、自分で理解できる言葉で受け取ることが非常に難しい現実を、少しでもよ くできないでしょうか？
・高額療養費制度と個人負担の絡みが問題化しております。

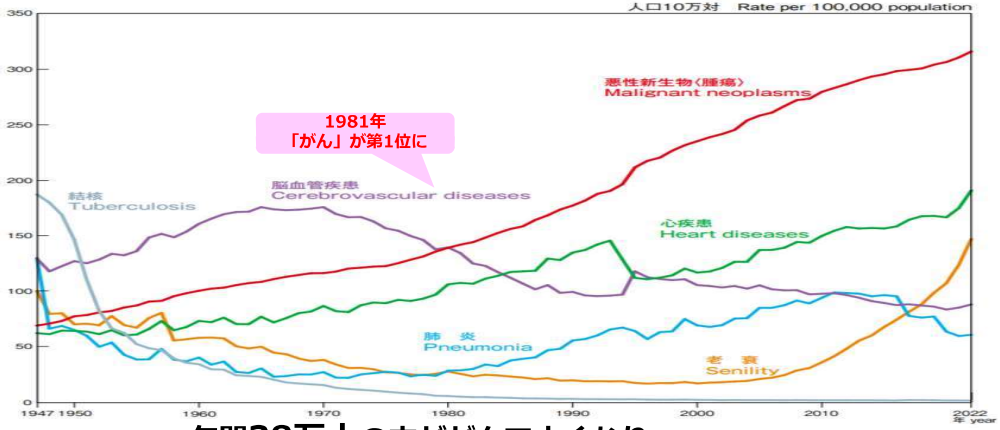
・どれが正しい？
・誰に相談すればいい？

・どれが信頼できる？
・他に良い情報があるのでは？

・あれこれ見にいかない　　・情報源と相談先を絞る

・医療者はあなたを知る情報源　　・支えになる場を活用する

主な死亡原因と死亡率の推移



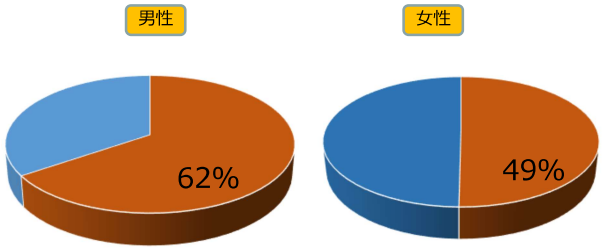
年間38万人の方ががんで亡くなり、
1年間で94万人もの方が新たにがんと診断されています。
（死亡　2023年データ、罹患　2020年データ）

国立がん研究センター

変わるがん医療とケア
変わらない情報とコミュニケーションの大切さ

1. がん医療のいま　変わる医療とケア
2. 信頼できる情報と相談先とは
   変わらない情報とコミュニケーションの大切さ

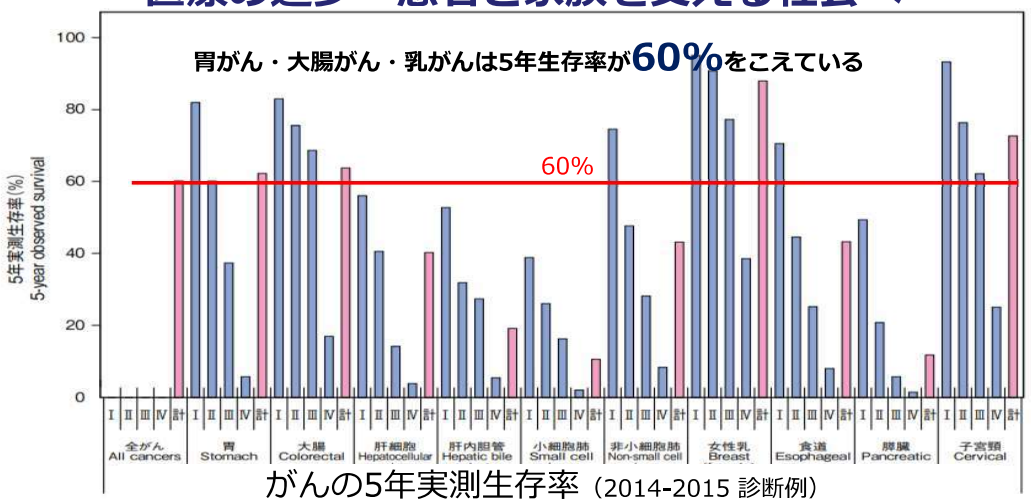
日本人の２人に１人ががんになる



生涯でがんに罹患する確率
＝生涯累積罹患リスク　（2020年）

国立がん研究センターによる推計値

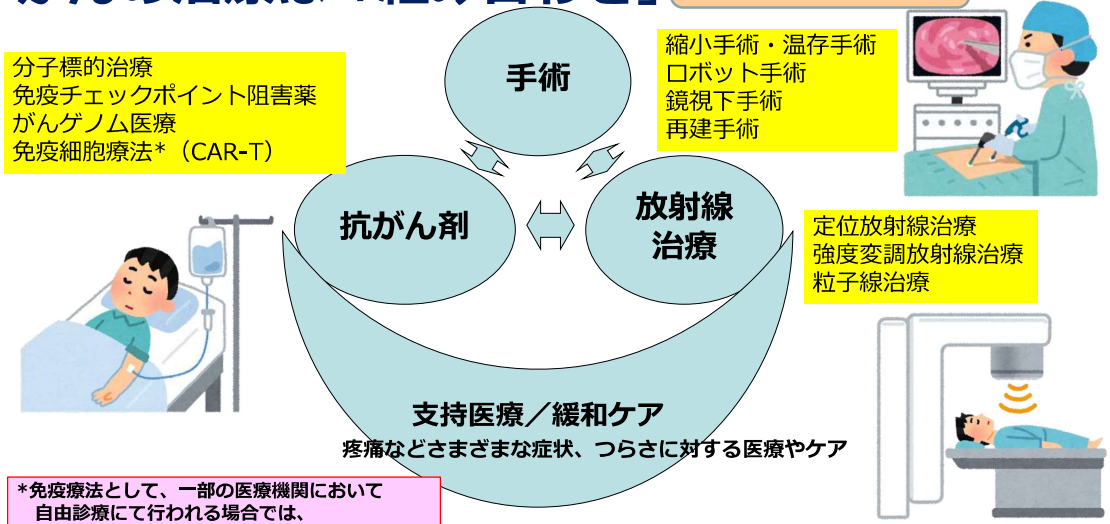
医療の進歩　患者と家族を支える社会へ



がんの5年実測生存率（2014-2015 診断例）
がん診療連携拠点病院等UICC TNM分類総合ステージ別　男女計
がんの統計2024　がん研究振興財団

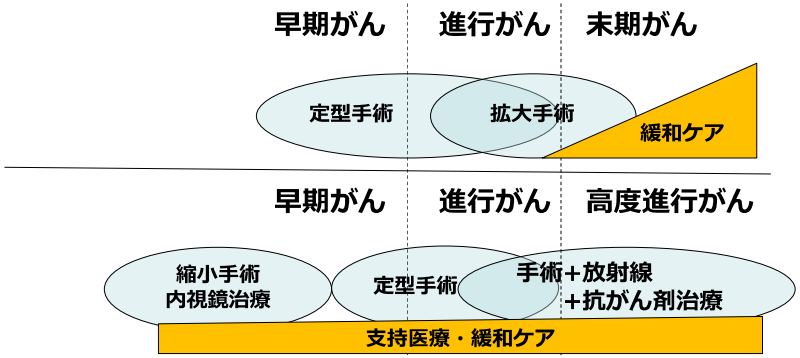
がんの治療は「組み合わせ」

集学的治療



*免疫療法として、一部の医療機関において
自由診療にて行われる場合では、
効果や安全性、費用などで十分注意が必要です

がん治療の考え方が変わってきています



かつては、がん治療を尽くして効果が見込めなければ、**「緩和ケア」**という考え方が主流でした。
集学的治療、緩和ケアや支持医療の進歩により、**生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）**や**予後の改善、治療の有効性・安全性が証明**されることで、
さまざまな戦略がとられるようになってきています。

がんの治療と副作用

自分でわかる副作用

- 吐き気/嘔吐
- アレルギー
- 動悸（ドキドキ）
- 便秘
- かゆみ

- 吐き気/嘔吐
- 食欲がない
- だるい
- 便秘
- かゆみ

- 口内炎
- 下痢
- だるさ
- 熱っぽい

- 脱毛
- 手足のしびれ
- 耳鳴り

不安・心配ごと

「言わないと、伝わらない」

検査でわかる副作用

- 骨髄抑制
  - 白血球・好中球減少
  - 貧血
  - 血小板減少

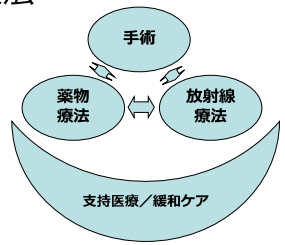
- 肝障害
- 腎障害
- 心機能障害

- 内分泌障害
- 肺障害
- 神経障害
- など

支持医療とは

「がんそのものに伴う症状」や「治療による副作用」に対する
予防策、症状を軽減させるための治療のこと。

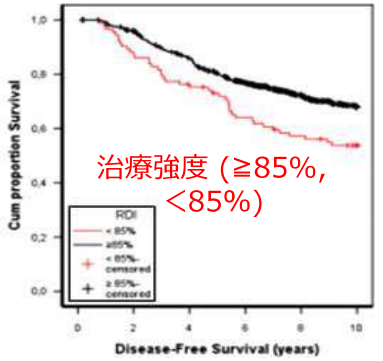
例1）感染症に対する積極的な抗生剤の使用
例2）抗がん剤の副作用である
　　貧血や血小板減少に対する適切な輸血療法
例3）吐き気・嘔吐に対する制吐剤の使用
など。

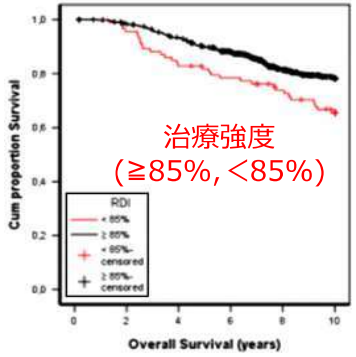


「国立がん研究センターがん対策情報センター」より引用

支持医療：治療を下支えする

Optimal delivery of anthracycline-based chemotherapy in the adjuvant setting improves outcome of breast cancer patients
Breast Cancer Res Treat (2009) 114:479–484





Disease Free Survival：無病生存率

Overall survival：全生存期間

支持医療：治療に伴う副作用を軽減

【非血液毒性】
吐き気・嘔吐　⇒　制吐剤、食事や環境の工夫
便秘・下痢　⇒　止痢剤、下剤
口内炎・粘膜障害 ⇒　口腔ケア、含嗽液、口腔内冷却
末梢神経障害　⇒　薬物療法、予防的ケア

【血液毒性】
白血球 (好中球) 減少　⇒　薬剤によるサポート
赤血球減少 (=貧血)　⇒　赤血球輸血
血小板減少　⇒　血小板輸血

患者さんを「支持する」医療とケアへ

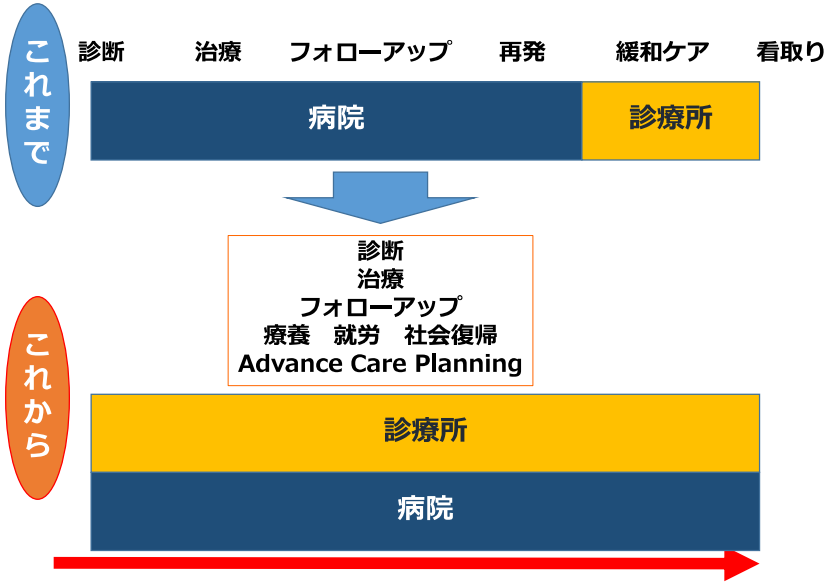
① 治療に伴う副作用(苦痛)を緩和させる
② がんによる痛みや症状を緩和させる
③ 精神的な心のケア
④ 終末期の医療やケア

※QOL (生活の質・生命の質) を維持・向上させる

2022年10月

【具体的に】
・がんに対する治療
・緩和ケア、心のケア
・副作用対策、後遺症対策　…など多様な要素からなる

結果として、
治療成功へ結びけることを目標に！



病院内チーム：手術、放射線治療、抗がん剤治療などのがん治療の急速な発展により、高度な集学的治療の提供が可能になる一方で、複数の専門職による関与が不可欠になりました。

地域医療チーム：一方、高齢化社会によるがん患者の増加、支持療法の進歩、患者のQOL重視の視点などから、がん治療は入院から外来にシフトしつつあるため、病院外の専門職の関わりが必要になってきています。

地域包括ケアチーム：さらには、生活者としての患者・家族を支えて治療を行う、看取りを含めたケアを住み慣れた環境で実現するための、介護福祉関係者、行政、市民を含めたチームという考え方も広がりつつあります。

患者必携　がんになったら手にとるガイド
国立がん研究センター　2013

変わるがん医療とケア
変わらない情報とコミュニケーションの大切さ

1．がん医療のいま　変わる医療とケア

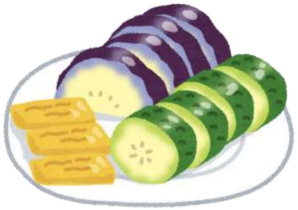
2．信頼できる情報と相談先
変わらない情報とコミュニケーションの大切さ

65歳　男性

高血圧と高脂血症で治療中

健康診断では血圧が高いことと、塩分を控える、たばこをやめるよう言われている

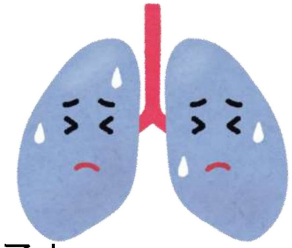
ラーメン、漬物大好き



最近食欲がない

何となく咳が増えた感じがある

検査で異常あり　拠点病院へ
肺がん　手術と抗がん剤治療



「大変だったけどこれで家に帰れる」
「一服したいし、しょっぱいのもそろそろ」

治療前
- 病状・治療の理解・治療選択の支援
- 事前のリスク評価
- 適切なセルフケア/家族ケアの提案

治療中
- 入院前説明
- 治療中の注意事項
- 副作用・後遺症のモニタリング

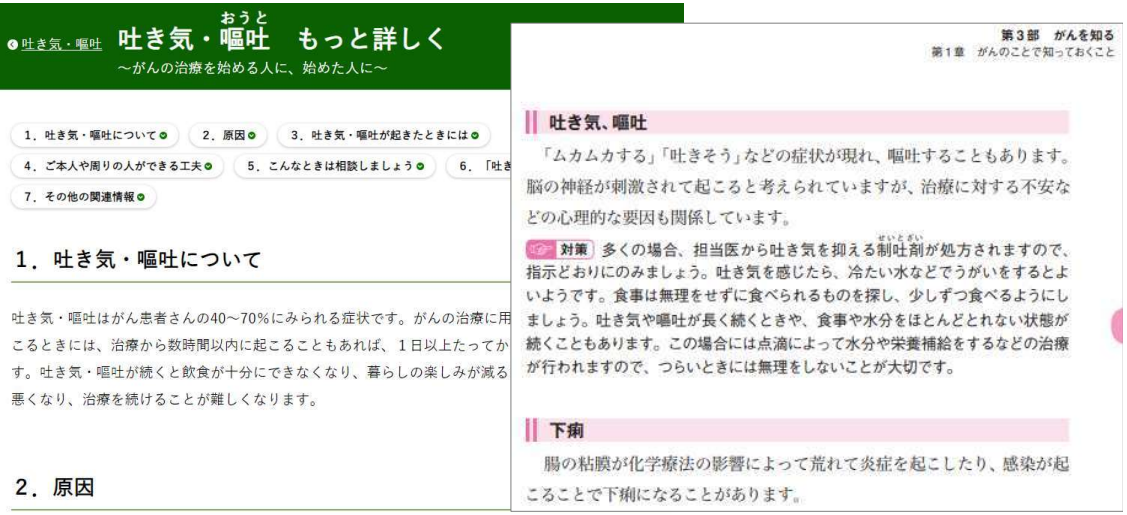
フォローアップ
- 後遺症の予防とケア
- 在宅での服薬管理・家族支援
- 生活面・経済面での相談
- 心理面・精神面の支援

- 開胸手術による治療
- 痛みのコントロールとリハビリ
  立つ、歩く、運動する、体力をつける

- お薬の管理・再発予防
- 後遺症の予防とケア
  減塩食・卒煙（禁煙治療）
- ストレスコントロール
- 退院後のリハビリへの移行

がん情報サービス　**インターネット**

https://ganjoho.jp/


吐き気・嘔吐

吐き気・嘔吐　もっと詳しく

～がんの治療を始める人に、始めた人に～

1．吐き気・嘔吐について　2．原因　3．吐き気・嘔吐が起きたときには
4．ご本人や周りの人ができる工夫　5．こんなときは相談しましょう　6．「吐き
7．その他の関連情報

1．吐き気・嘔吐について

吐き気・嘔吐はがん患者さんの40～70%にみられる症状です。がんの治療に用
こるときには、治療から数時間以内に起こることもあれば、１日以上たってか
す。吐き気・嘔吐が続くと飲食が十分にできなくなり、暮らしの楽しみが減る
悪くなり、治療を続けることが難しくなります。

2．原因

がん治療中の吐き気・嘔吐の多くは、がんの治療で用いる薬や麻薬などその他の薬で起こります。また、手術や放射線治療によって起こる場合もあります。そのほか、がんが消化器や脳に影響を与えて吐き気や嘔吐を起こす場合や不安による場合などがあります。また、原因は必ずしも1つではなく、複数の原因によって起こることもあります。

第３部　がんを知る
第１章　がんのことで知っておくこと

吐き気、嘔吐

「ムカムカする」「吐きそう」などの症状が現れ、嘔吐することもあります。脳の神経が刺激されて起こると考えられていますが、治療に対する不安などの心理的な要因も関係しています。

対策　多くの場合、担当医から吐き気を抑える制吐剤が処方されますので、指示どおりにのみましょう。吐き気を感じたら、冷たい水などでうがいをするとよいようです。食事は無理をせずに食べられるものを探し、少しずつ食べるようにしましょう。吐き気や嘔吐が長く続くときや、食事や水分をほとんどとれない状態が続くこともあります。この場合には点滴によって水分や栄養補給をするなどの治療が行われますので、つらいときには無理をしないことが大切です。

下痢

腸の粘膜が化学療法の影響によって荒れて炎症を起こしたり、感染が起こることで下痢になることがあります。

がん情報サービス
患者必携　がんになったら手にとるガイド
（国立がん研究センター）

在宅療養を支える家族向けの情報

内容についての意見

・患者本人とのコミュニケーションの取り方がわかる
・家族のケアのやり方、最期のときの様子がわかる
・気持ちが動転しているときに、大変役立つ内容
・心の準備ができる、気持ちの余裕を取り戻せる

届け方についての提案

・手に取るタイミングが非常に重要。自他ともに受けとめる時期が良いのでは。
・病院、在宅医、訪問看護ステーション、薬局など、目に触れる機会を増やすことが大切。

https://plaza.umin.ac.jp/homecare/

地域におけるがん患者の緩和ケアと在宅療養情報普及と活用プロジェクト

https://plaza.umin.ac.jp/homecare/

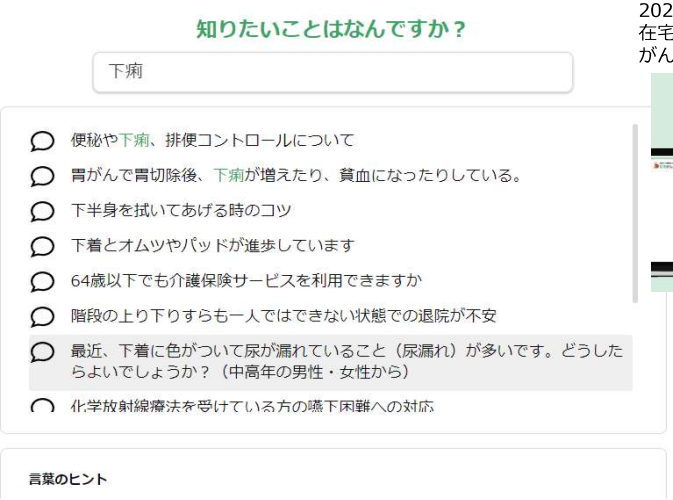
2015年公開
全文を無料で読める
がん診療連携拠点病院に見本版を提供
2016年書籍化
2022-23年　改訂
2024年5月　新版発行　ネット公開

がん患者さん・ご家族向け「地域の療養情報」の作成

43道府県で公開（2025年2月現在）　（　）内数字：改版数、記載なし：不詳

在宅がんウィット（在宅で過ごすときに役立つ情報）

https://ganwit.jhocc.jp/



2021/11
在宅がん療養財団が検索型FAQ『Helpfeel』を導入。
がん専門医監修のFAQでの採用は初。

・意図予測検索
・検索型FAQサイト
・福祉・介護関連の相談
・家族・支援者向け情報も拡充

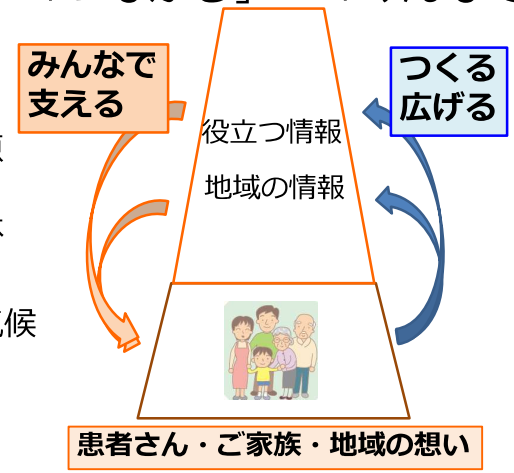
https://ganwit.jhocc.jp/

地域で支える、新しい医療のかたち

「情報をつくる」→「つながる」→「みんなで支える」

在宅医療
緩和ケア
地域の医療・療養資源
独自の社会支援制度
患者会・患者支援団体

歴史・風土・文化・気候
家族観・人生観



がんに関する知識データベースをもとに

情報提供可能な対話型がん相談モデル

まとめ

”変わるがん医療とケア
変わらない情報とコミュニケーションの大切さ“

・**がん医療のいまと情報と対話の大切さについて**ご紹介しました。
・**早い時期**のほうが、対応の選択肢は広がります。
・必要な人に届けるには**情報とコミュニケーションが大切**です。

地域で「考えよう」
「話し合おう」
「伝えよう」

お役立ち情報まとめ

・がん情報サービス（国立がん研究センター）
https://ganjoho.jp/

・がんの在宅療養（地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報　普及と活用プロジェクト）
https://plaza.umin.ac.jp/homecare/

・地域のがん情報（がん情報サービス）
https://ganjoho.jp/public/institution/prefectures/index.html

・在宅がんウィット（在宅がん療養財団）
https://ganwit.jhocc.jp/

・認定がん医療ネットワークナビゲーター制度（日本癌治療学会）
https://www.jsco.or.jp/certifiednavi/

・がん研究　患者・市民参画　マナビの広場（厚労科学研究事業　患者市民参画の推進　教育研究班）
https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/

・AI対話型がん相談（検証事業）
https://udify.app/chat/fjTl1YpvjSksx59V

同　アンケート
https://forms.gle/GcwK5v8oP568FokK8